

## 兵庫県・神戸市調整会議議事録

平成30年12月17日（月）13時30分～15時  
兵庫県公館第1会議室

出席者：（県）井戸知事、荒木副知事、松本県議会議長、小西県議会副議長  
松田会計管理者、伊藤技監、山口企画県民部長、  
水埜政策創生部長、片山産業労働部長、藤澤農政環境部長、  
秋山環境部長、濱県土整備部長、奥原まちづくり部長、  
谷口神戸県民センター長  
（市）久元市長、岡口副市長、寺崎副市長、北山市議会議長、平野市議会副議長  
山村市長室長、谷口企画調整局長、今西理事、遠藤行財政局長、  
岡田市民参画推進局長、三木保健福祉局長、小原経済観光局長、  
油井建設局長、岩橋住宅都市局長、辻みなと総局長、広瀬水道局長

### 【井戸知事 開会あいさつ】

年末の忙しい中、兵庫県・神戸市調整会議にご参集いただき感謝申し上げます。

今年は兵庫県が誕生して150年、昨年は神戸市が開港150年記念事業を展開された。2年続けて150年祭が行われ、一つの節目として意義があったのではないかと思います。

今年の漢字一文字は「災」という字であったが、私は災害の「災」ではなく、この節目を礎にして未来へ飛躍したい、そのための150年だったはずだという思いを込めて節目の「節」という字を選んだ。

神戸市とも協力して推進していかなければならないプロジェクトがたくさんあり、三宮の再開発、六甲山の再開発、合同庁舎の整備等による新長田の賑わいづくり、検討中の県庁舎の再整備など、神戸市の協力によって形も変わってくると思う。

そのほか、ソフト面では、災害体制のあり方や津波対策への対応、神戸市独自の対応もあるが、県全体としての対応も検討していかなければならないと思う。

昨日、ルミナリエが終わったが、来年度は25年を迎えるので、ポスト震災でどのように25年の節目を迎えるか、これも含めて共同で取り組んでいかなければならないのではないかと思います。

兵庫県は人口減少が止まらないが、強いところは強い対応を、弱いところは弱い対応をしていかななくてはならないと思う。小規模集落が10年間で240から500を超えることになった。そういう意味で地域再生大作戦を抜本的に強化していきたいと思う。国のトリクルダウン政策だけでは、強いところを更に高みに上げていくだけで、弱いところは高みに上げられなくても、沈まないような対応をしっかりとっていくということが大事なのではないかと思うので、ご協力を賜りたい。

併せて、幼児教育無償化で多くの社会参加を目指す母親が出てくる可能性がある中で、その対応についても、県市一体となって対応していく必要があるのではないかと思います。

共通課題がたくさんあるので、神戸市と兵庫県が足並みを揃えて立ち向かっていきたいと願っているので、よろしくお願ひしたい。

## 【久元市長 開会あいさつ】

井戸知事をはじめ、兵庫県幹部の皆さま、松本隆弘議長、小西隆紀副議長には、日頃から神戸市政に格別のご支援をいただいていることに、感謝申し上げます。

今日は北山順一議長、平野昌司副議長ともども参加させていただいた。有意義な議論を展開できるよう、よろしくお願い申し上げます。

年初から、今年は阪神大水害から80年の年にあたるということを示し上げてきたが、7月の始め、まさに阪神大水害とほぼ同じ雨量を神戸市では記録した。その後、台風20号、21号、24号と来襲したが、ほとんど人的被害は無かったということは、阪神大水害後、営々と六甲山砂防事業が国、兵庫県、神戸市の連携の下に進められてきた成果ではないかと思う。

しかし、台風21号ではかなりの高潮による浸水被害があり、河川の氾濫もあった。このことについては、国の呼びかけもあり、高潮対策検討委員会、神戸港部会もつくっていただいて検討しており、また、河川の氾濫対策についても、兵庫県と神戸市でしっかりと調整して進めていかなければならない課題だと考えている。また、避難の呼びかけに関しては、各自治体でも同じであるが、さまざまな課題が残されている。避難勧告に対して、これに添えて避難される方は全体から見ると極々一部に留まっている。

避難に関する情報の種類などについても、見直しも行われていると思うので、しっかりと市民にわかりやすい形で、どういう形でこの情報を伝達していけばいいのか、まだまだ課題はあるかと思うので、これも両者での検討をお願いします。

神戸のまちづくり、インフラ整備については、間もなく大阪湾岸道路西伸部の延伸も本格的な事業が始まる。

また、新長田の合同庁舎については、31年度の供用を目指して着々と事業が進められており、新長田もこれから大きく変わっていくと思う。

三宮の再整備など、都心の再生については、神戸市が関係する具体的な施設の再配置について、ほとんど決定した。兵庫県においても、県庁の再整備などを検討しているので、兵庫県の施設の再整備、そしてこの神戸の都心のまちづくりのあり方が接合していくことになる。より一層の連携が必要になっていくのではないかと思う。

これらの事柄については、うまく調整ができており、前を向いて進むことができていることを大変ありがたく思っている。

その中で、必ずしも順調に進んでいないという風に思っているのが、六甲山の活性化である。これは、再生委員会が設置されて様々に議論を進めてまいり、主として神戸市の責任ではあるが、大きな方向性というものがまだ、関係方面に十分に示されておらず、また、かねてより課題になっていた規制のあり方についてもなかなかすっきりした形で議論が整理できていないということをお大変申し訳なく思っている。

私も六甲山、摩耶山に行った際に、案内が大変分かりにくいと感じた。また、最近ほとんどの来街者はネットを使って来街することになるが、このネット上の情報もそれぞれの事業者、観光関係の団体や自治体毎に縦割になっていて、来街者本位になっていないということは、大いに反省すべきではないかと思っている。私どもも、中でしっかり議論して、また兵庫県に相談させていただきたいと思うので、よろしくお願いしたい。

そのほか様々な課題があり、今日は率直な意見をいただけるようお願いしたい。

## 【資料説明】

<省 略>

## 【意見交換】

(松本県議会議長)

説明を聞き、改めて県と神戸市の協調の重要性を感じながら、議会としても連携をしていかなければならないと思ったところである。

私から2点、発言したい。

社会基盤の整備推進に関して、大阪湾岸道路西伸部と神戸西バイパスの整備促進について、阪神高速や国道2号、第二神明など幹線道路の渋滞緩和、また沿道環境の改善、企業進出等地域活性化への効果等が期待され、神戸また兵庫、関西圏の国際競争力の強化を図るうえで、非常に重要な路線と認識している。

先程から話に出ているように、ゴールドンスポーツイヤーズがいよいよ来年から始まり、先般、大阪万博開催が決定したことで、この関西・兵庫・神戸が注目され、更に発展が期待される。

加えて、先程から災害の話が出ているが、こういう路線は災害時の緊急輸送道路としての役割が非常に大きいと考えるところであり、現在、激甚化・多発化している災害に対して、救援・支援活動や社会経済活動の機能不全を回避するためにも非常に重要な整備であることから、今後とも、国土交通省や阪神高速道路(株)に予算確保と早期整備を働きかけるとともに、道路災害対策を始めとした治水・高潮・土砂災害対策などの防災対策などに、連携して取り組んでいきたい。

もう一点、ゴールドンスポーツイヤーズを契機とした誘客促進である。

いよいよ来年からゴールドンスポーツイヤーズに突入していく。特に来年のラグビーワールドカップは、世界三大スポーツイベントであることから、兵庫の魅力を国内外に発信する絶好の機会であると考えている。更に、神戸市が大きく盛り上がれば、それが兵庫県全域にも広がり、誘客に繋がると考えており、是非力を入れてやらなければならないと思っているので、(資料の協議事項3にある)「今後の取組の方向性」の3つについてはしっかりと連携強化を図るようよろしくお願いする。

一部で、ラグビーワールドカップがちょっと盛り上がっていないのではないかと聞くところであり、これは神戸市も全力で取り組んでいただき、兵庫県もしっかりと応援をする、という形でいきたいと思う。

最後に久元市長から六甲山の活性化という話があった。実は県議会の神戸選出の議員からもしっかりと取り組むべきと伺っているので、着実に前進していただきたい。

(北山市議会議長)

ただ今、同感だと言う意味で、心強い思いを持って聞いていた。県市協調で何事も足並みをそろえてやっていきたいという久元市長の話があったように、神戸市、兵庫県が単独でいろいろなことに取り組んでおり、県市足並みをそろえて取り組んでいくという姿勢が、全ての分野に及べばよいと思う。

共通項目にあるゴールドンスポーツイヤーズにちなんで言えば、神戸市も兵庫県もスポーツの経済的効果を考えるべきだと思っている。神戸市は今、医療産業都市を目指して全力で取り組んでいる状況である。この医療産業都市づくりが、県市協調の下に進んで行って欲しいと思う。現在協調が十分できているが、もっと力を入れてやっていただけたら、素晴らしいものになるという意味で、医療産業都市にかける情熱と力をこのゴールドンスポーツイヤーズだけではなく、今後の政策の根本にゴールドンスポーツイヤーズを取り入れていくぐらい足並みをそろえて頑張っていたらいいと思う。

知事がいろいろな話をしているのを聞きながら、何もかもその方向でやって欲しいと思う。県市が一体となって取り組める体制を更に強く取り入れていただきたいと思う。

もう一つ、ここに大きく書かれているとおりに新長田の再整備が長年言われている。

新長田の再整備はできて当たり前だと思っているが、これも県市協調でやってほしい。根本はJRだと言うくらいの気持ちで取り組んでいただきたいと私は思っている。これを実現するためにも、皆と一緒に力を合わせなければならないと思っているので、今後とも一層努力していただきたいと思う。

また、私は議員になって半世紀近くなるが、この間ずっと見ている中で、県市の協調がうまく運んでいるのは、今をおいてないと思っている。井戸知事と久元市長のこのコンビというのは、私の45年の経験の中で一番素晴らしい状況になっていると思うので、今後ともよろしくお願ひしたい。

#### (小西県議会副議長)

私からは三宮と県庁、元町山手地区の再整備について意見を述べる。

三宮の再整備と県庁周辺の再整備は兵庫の玄関口として、県全体の社会経済、また国際観光の発展からみると大変大きな意味のある、地域創生・地方創生に繋がる大きなプロジェクトだと思う。

そういう観点から捉えた時に、三宮の再整備はずいぶん計画どおり進んでいると聞いているが、県庁周辺については、特に県庁ということを考えると、540万人の県民の県庁であるということ、日本海側から瀬戸内までを含めた広い県土の県庁であるということ、を踏まえると、現実的かどうかは別にして、私たち県議会として、県庁の位置ということも一応協議の俎上には乗せておかなければいけないと考えている。

ただ一方では、現実的な話があるので、県庁周辺と三宮周辺の再整備というのは、神戸のまちづくりの中において、しっかりと連携して進めて行かなければならないと思っている。

それぞれの事情はあるが、きちっと連携しながら、今後50年、100年先のまちづくりを見据えて、良いものに仕上げていかなければならないと思う。県全体の経済発展を考えた時に、この三宮と元町、県庁の間をうまく整備することで、関西広域連合ということも含めて、地方分権の受け皿としても考慮しながら、しっかりと新しいまちづくりにつなげていかなければいけないと思っている。

#### (平野市議会副議長)

私から4点、申し上げたい。まず、県民緑税であるが、神戸市域から7.8億円納めているが、1.5億円しか使っていない。これは意外に市民の認識が弱いということもあると思うが、まちなみ緑化事業を市街地でもっと活用できるように、事務方を通してもっと打ち合わせをして、何とか活用しやすいようにしていただきたい。

それから、小西副議長から話があったが、三宮の再整備と元町周辺の再整備について、県は元町再整備と言っており、市は三宮だと言っている。市民にとって、いったいどちらなのだという話で、三宮・元町一帯の全体像をみて取り組んでいただかないと非常にもったいないと思うと同時に、単なる再整備でハードばかりになるのではないかという懸念もあるため、ソフトを是非入れて欲しい。

例えば、議会でも提案したが、東京の大使館を回り、あらゆる領事館をできるだけ誘致し、出先機関を神戸に引っ張っていただくなどしないと、単なる再整備だけになり、あまり長続きしないと思うので、ソフト面で目標を立てていただきたい。

それから、県庁発祥の地整備を中央市場跡地でやろうとしており、もちろん賛成だが、中央市場の皆さんに話をすると、中央市場はイオンに土地を提供して、また県庁発祥の地の関係でも土地を提供するのかという話があり、私に意見が来るため、水産棟の裏側

にある公有水面を埋め立ててはどうかということで、神戸市もその方向で考えている。

そういうことであり、県庁発祥の地を作ると同時に、公有水面の埋め立ても県市一緒になって、国との交渉も含めて是非考えていただき、中央市場の活性化とともに県庁発祥の地の賑わいにつながるよう、この点は県市協調でやっていただきたい。

それから、六甲山の再整備について、知事が神戸ビーフ館について発言をされているが、神戸ビーフは大きな問題であり、六甲山全部を神戸ビーフの館になるような、あるいは牧場にもなるような、そういう観点からの六甲山の利用を考えていただきたい。

### (井戸知事)

北山議長から医療産業都市の推進について話があったが、これは本庶先生のノーベル賞受賞もあり、これからの時代を考えると、更なる新しい取組をしていかなければならない。県としてもしっかりと分担すべきは分担して推進を図りたいと思う。

大阪万博が決まったので、テーマである「健康」と関連して取り組んで行くことも必要ではないかと思う。その際に、私は是非サテライトをつくらなくてはいけないと考えている。これはまだ万博組織委員会ができていないので、誘致の話を大阪府、大阪市いずれにするのか分からない状況であるため、具体の動きができていないが、やはり万博のエネルギーを神戸にも取り込んでいくためにはサテライトを神戸市内に置く必要があると思う。その際には医療産業都市での活動とタイアップしたような、最先端の医療の紹介ができるようなサテライトにしていく必要があるという考えで推進を図りたいと考えている。

新長田は着々と整備しているが、快速を停める話と東側改札を開けるという話があるが、快速を停めるより東側改札を開ける方が話を進めやすいのではないかと私自身は思っているが、これも協力して推進を図っていきたい。

平野副議長から、県民緑税について還元率が低いという話があったが、元々都市緑化には3割となっており、2.1億円は当然戻るところ1.5億円しか戻ってないのであれば0.6億円足りない、という話と、もうひとつは六甲山の防災対策にも事業を行いたいという話があるのだと思うが、両面ともかたくなではなく、できるだけ相談しながら推進を図りたいと思っている。

森林環境譲与税ができるが、県内では神戸市の譲与額が一番大きいので、是非これを活用していただきたいと思うが、経済林については従来の補助事業を活用し、非経済林は森林環境譲与税を活用して、そして災害に強い森づくりは県民緑税を活用していく、こういう役割分担をきちっと区分して運営をさせていただきたい。

それから、元町の再整備は、我々はどちらかということ県庁の再整備をまずやらないといけないが、あまりにも南北の軸が弱いということから、できるなら元町との結びつきも強化したいという意味で提案をしているので、具体的な面的なデザインは神戸市とよく相談して、一緒に考えないといけない話だと思う。

続いて、ソフトとしてまちづくりをどのように活用していくかという提言について、いろいろなアイデアを私は市民、県民から募集してはどうかと思う。我々だけで一方的に使い方を決めてしまうのも如何かということもあるので、留意していただければと思う。

それから、県庁発祥の地の問題について、今提案を受けている話だとちょっと狭い。どうするか検討して、少なくとも県庁の復元はずっと言ってきた話なので実施する。しかし県政資料館をそのまま続けるのか、端に押し込むのか、ただ、3階か4階ぐらいにするのであれば提供いただく用地でも足りそうである。とりあえずはそういう形で整備をしてしまうかということもあると思う。

また、これも具体的に相談をしたいと思うが、埋め立てる話になるとまた延びてしまうので、150周年記念事業としてやれることはやってしまった上で、更にどんなことができるか検討していった方がいいのではないかと思います。

元々この話の始まりは地下鉄海岸線の乗客を増やそうと、そのために県も協力するという経緯でこのプロジェクトが生まれているので、もう20年経っており、一区切りつけるということもあろうかと思う。

それから、六甲山については、何とかしていかななくてはいけない。今までのつけが六甲山委員会に回っているが、3月の六甲山委員会で検討条項が残るようでは困る。けりをつけなくてはいけない。

六甲山委員会できちっと方向性がそれぞれ明確に出せるようにしないといけないので、今からどのような具体の対応をしていくのかということ具体的に相談していかなければいけないので、この点は私どもからも提案し、神戸市からも検討状況を説明していただけるような対応が望ましいのではないかと思います。

### (久元市長)

本庶先生がノーベル生理学・医学賞を受賞されたことを契機として、本庶先生のご意見をしっかりお伺いして、健康・医療に関する研究開発を医療産業都市の舞台で進めるということは非常に理にかなっていると思う。

先日、国の予算要望を行い、国にも支援をお願いするというところで、併せて兵庫県と神戸市も協調して、そういう意味での研究を進めていくということと一緒に進めていきたいと思う。

大阪万博が決まったことを契機として、医療産業都市でも展開の可能性ということがもちろん考えられるが、まだ大阪万博に関する実行組織が立ち上がっておらず、会場計画も未知数であるため、状況を慎重に見極めながら、神戸側の対応を検討していくことが必要ではないかと思う。併せて、万博会場の夢洲と神戸空港、あるいはポートアイランド、六甲アイランドは海路で大変近い距離にあり、これを海路で結べないかということこれを割合に大阪側からも肯定的に、むしろ積極的に捉えていただいているようであり、検討を進める話があるのではないかと思う。

それから、中央卸売市場跡地に県庁を復元いただいて県庁資料館をつくっていただくというのは大変ありがたい話である。海岸線の集客増にも資することになり、あらためて兵庫県庁が兵庫区のある地から初庁したのだということたくさんの皆さんに知っていただくということに非常に意義があると思う。是非、よろしく願います。併せて、私たちも老朽化している冷蔵庫の移転をしなければいけないので、少し時間をいただくが、市場全体の再整備をしなければならぬため、それに関連した整備の一環として埋め立てをするということ、これは神戸市としてやらせていただきたいと思っている。

六甲山の再生については、先程も申し上げたが、もう少しスピードアップして進めなければならないのではないかと思います。先程の説明では今年度規制緩和をしてその様子を見てまた規制緩和をやるというのでは非常に分かりにくく、予測可能性というものをもっとはっきりと担保していかなければならない。

数ヶ月前に民間の経済界の方と議論した時に、六甲山上の通信環境が非常に悪いという話があり、これを何とかするため、通信環境の整備をすれば、整備された通信環境をより有効に使うということが費用対効果の面でも必要になってくるので、そうするともう少し観光を主体とした利用以外の可能性も広がってくるのではないかという気もするので、そういう面も含めた規制緩和ということができるだけスピード感を持って早急にやっていきたい。

それから平野副議長からも話があったように、神戸市としても神戸ビーフの展開を六甲山上に検討したいと思っているので、これも相談をしたいと思う。

#### (平野市議会副議長)

大阪万博で県市がどこまでの協力をし、どこまでするのかというスタンスをできるだけ早く決めていただきたい。それは、医療産業都市構想は神戸が発祥であるが、どんどんいろんな所で医療産業の取組が始められており、大阪万博で「(大阪が)健康医療の中心だ」と言われたら、神戸の医療産業はどうなるのだという心配がある。

万博に対して意見を申し上げ、実行しようとするすると大阪府市から応分の費用の負担を求められると思う。そうすると、どこまで県市が出せるのか、少なくとも大阪・神戸全体を含めた健康、医療の大きな絵を描いていただかないとせっきくの神戸の医療産業が非常に寂しい思いをしてしまうので、是非スタンスをきちっと決めていただきたい。

#### (井戸知事)

どんな形のどんなデザインにするのかは難しい所だが、メイン会場は夢洲なので、会場をこっちに持って来ることはできないが、少なくとも兵庫・神戸でつくるサテライトは、こちら側が主体性を持って整備することになると思う。そうするとその中に何を盛り込んでいくか、これは神戸市ときっちり相談しながら進めて行く必要がある。

それとメイン会場をほったらかしということはできないので、そちらもどういう形で打って出るのか、この二段構えで進めて行かなければならないのではないかと、私自身は思っている。素晴らしい案を期待しているので、頑張ってください。

#### (久元市長)

万博なので経済界が中心となってくると思うので、神戸の商工会議所ともよく相談して、大阪のメイン会場に神戸の経済界も関わってくると考えられるので、経済界ともよく相談したいと思う。

#### (井戸知事)

県庁発祥の地の航空写真を見る限り、中央冷蔵倉庫の(トラックやフォークリフト等が通る)低速専用道路というのが北側にある。これを敷地の北の端に移して、それで用地を確保することができるのではないかという気がする。そうすると、冷蔵庫にも迷惑をかけないで、市場にも迷惑をかけないで、更に大きな整備が考えられるのではないかと思うが、是非、平野副議長からもご理解の働きかけをしていただければありがたいと思う。

#### (平野市議会副議長)

県庁発祥の地ですから、ここに来ていただくのは全く抵抗ない。ただ、加工場がなくなってしまうということで、中央市場から意見が出た。それなら、このように水面を埋め立てて、用地を確保したらどうだということだったが、ただ、埋め立てる時間と色々な問題があるので、時間の制約がある。

誤解がないようにしていただきたいのは、考え方は一緒であり、来てもらうことに何の抵抗もない。市場の皆も賑わいがあるのはいいが、面積が取られ狭くなるのがつらいということで、埋め立て地に神戸市も理解して、やろうとなったわけである。

### （岡口副市長）

知事が発言された道路の関係だが、案についても随分現地も調査して、造りも調査して考えたが、この中には出ていない北側の土地を通る倉庫まで行っている業者の車が多く通っている。その上をまた別の（イオンに向かう）いろいろな車が通っているので、申し訳ないが、現地調査の結果、とてもできないのでご理解いただきたい。

### （井戸知事）

高橋川については、どうしても橋の部分が低いので、我々の提案は両側に遮蔽板を置けるように、橋の手前まではテトラポッドぐらいで良いので、かさ上げをするような対策を行って、橋の所だけ遮蔽板をつくっていざという時にはめる。

国道2号線などもとても大きな遮蔽板を毎回水防のために車を止めてはめている。それと同じような方式を高橋川でやってはどうかと思っており、またよく相談させていただきたい。

それから、災害弱者の個別避難計画を是非計画化していただきたい。調べてみると全県平均で一桁台である。神戸市はもう少し高いかもしれないが、真備町の例もあるので、これをやっておかないといけない。

もうひとつは避難指示・避難勧告であるが、7月豪雨の時は、神戸市は個別に現地まで入り、避難指示エリアをかなり限定して避難指示を出したが、高潮の時は沿岸域全体に指示が出されていた。範囲が長いので仕方がないと思うが、どのような対応をするのがよいのか、我々も専門家を集めて議論しているが、神戸市は具体の運用をやっているので、理想的な運用があれば教えていただきたいと思う。

### （久元市長）

高橋川は、今知事がおっしゃったことも含め、いくつかの案を相談しているところである。災害弱者について、神戸市は災害要援護者支援条例があり、個別に防災コミュニティごとにリストをいかに広げていくのかということに努力をしている所であり、是非的確に避難誘導ができるようにやっていきたいと思う。

それから、災害対策基本法上は避難指示権限は市長にあるが、神戸市は完全に消防署ごとの判断でやることにしている。消防署が中心になって個別にきめ細かく、避難誘導をするということにしており、残念ながら高潮の時は六甲アイランドの出張所が被災した。ここは検証をしなければならないと思っている。検証した上で、再来した時にどのように避難誘導するのか、あらためて考えたい。